

## 呼んでゐる

大橋弘典

- 25 無記名の身体に颱風が来る
- 24 新涼を皿てかてかと割れてゐる
- 23 小説に鬼籍の語あり秋茄子
- 22 盆花の輪ゴムを乱暴に弾く
- 21 秋湿り死にさうな目の鳩時計
- 20 蠟螂に燃えきる蠟のごとき貌
- 19 うかうかと夜食に湯気の立つてをり
- 18 卵黄に入れたる箸や豊の秋
- 17 稲妻にぬつと滲んでゐるインク
- 16 風として狗尾草を押し潰す
- 15 秋空にかざして重き磁石かな
- 14 小春日の礼拝朝のヨーグルト
- 13 人の良ささうな顔して大根播る
- 12 沢庵を漬くるくらさへもどりけり
- 11 斜視気味に白鳥を見続けてゐる
- 10 手袋す小鳥のやうにあたたまる
- 9 控へ目に鳴るタイマーや冬日ざし
- 8 着膨れてうっかり生きてゐる廊下
- 7 北国の駅舎や絶交とか言つて
- 6 冬木立よりやはらかな喉仏
- 5 雑談をこぼさずに聴く煤払ひ
- 4 初晴や雀荘駐車場に砂利
- 3 ざつくりと蕪切るまでの曇りかな
- 2 日本沈没透き通るまで雪あそび
- 1 小の字の両側に点春浅し
- 26 風船が地球の断面図のうへ
- 27 ガムぐにやりぐにやり陽炎てふ遊び
- 28 消毒の手になじませてゐる春日
- 29 パンジーやさみしい占ひが当たる
- 30 うらかな耳のうしろをさらしけり
- 31 明日倒す樹が囀を呼んでゐる
- 32 のうのうと露店に壺や花曇り
- 33 ボールペンこななに卒業と書ける
- 34 花冷のかたりと畳むパイプ椅子
- 35 春泥に沈めればもう晴れてゐて
- 36 葉桜をともしに葦にもどらうか
- 37 白地図の日本列島風薫る
- 38 水玉模様新緑を浴びて来て
- 39 六月や点字の打つてある名刺
- 40 梅雨晴間エツフェル塔になるパズル
- 41 工場にせまき鍵穴百日紅
- 42 空蟬に裂け目日めくりカレンダー
- 43 茄子を挽ぐときはあかるき谷の底
- 44 生まれ来て焔をよぢり見てゐる蚊
- 45 ラジオ消す朝市に紫蘇積み終へて
- 46 研ぐやうに舐めるスプーン夏旺ん
- 47 舐するたびに蚯蚓の縮むかな
- 48 さする脚より夕立の雲の湧く
- 49 用水のここより暗渠夏の月
- 50 劇場に酸っぱい鎖夜の秋